

アスペルガー症候群

2010/6/16

M1

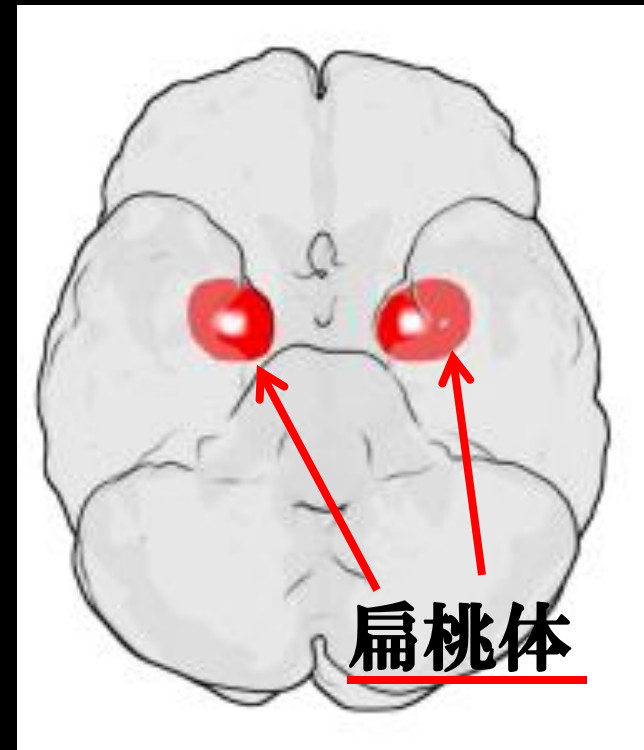
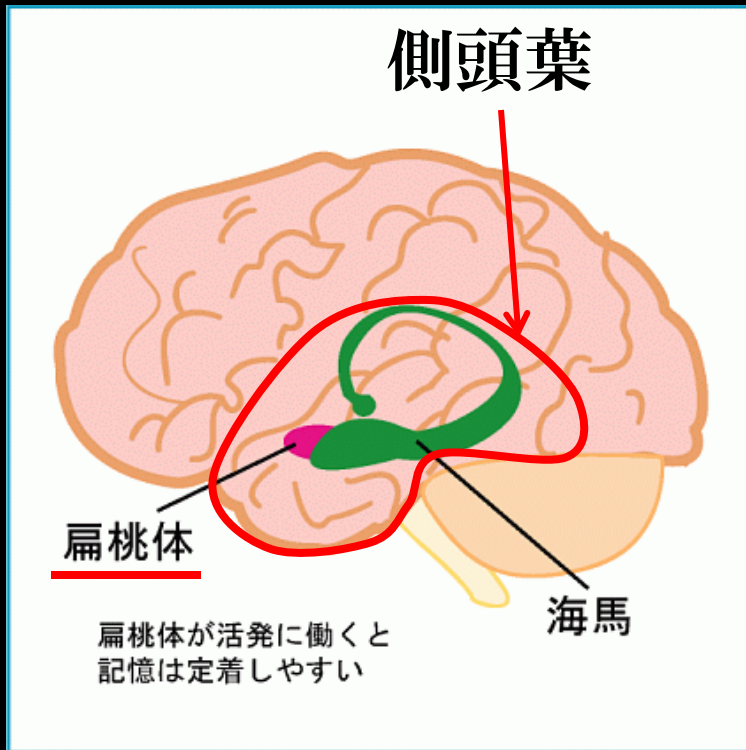
窪田 泰三

[アスペルガー症候群の脳内]

1. **扁桃体**の構造に異常が見られる
2. **社会脳**の未発達
3. 小脳の**プルキンエ細胞**が未発達
4. **神経伝達物質**の異常

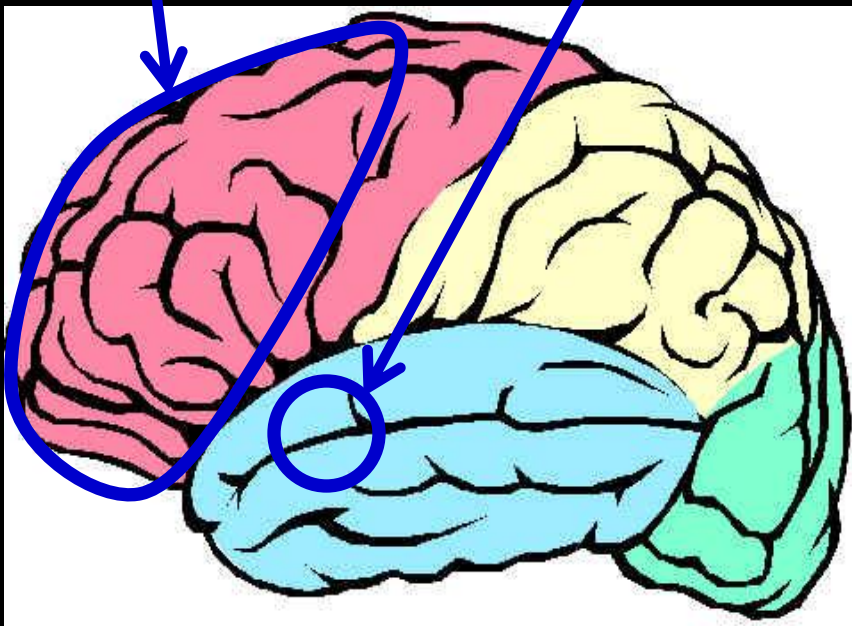
1.扁桃体の構造に異常が見られる

扁桃体とは？



2. 社会脳の未発達

前頭前野 + 扁桃体 =

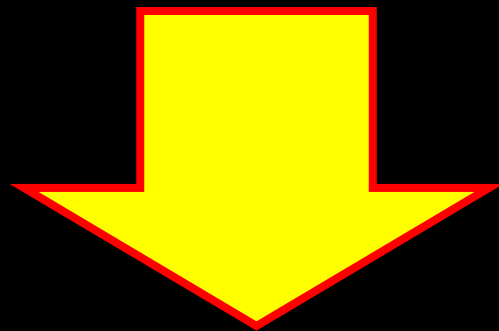


社会脳

3.小脳のプルキンエ細胞の未発達

プルキンエ細胞の役割

協調運動、注意の切り替え、運動学習



不器用・運動が苦手・動きがぎこちない

4. 神経伝達物質の異常

【GABA】

抑制作用

【セロトニン】

心のバランスを
整える

伝達物質の数が
少ない

不安感が強い・暴力的・衝動的・鬱

アスペルガーの脳タイプ

1 + 2 + 3 + 4

||

システム化の能力が高い

アスペルガー症候群の脳タイプは**極端な男性脳**である

アスペルガーが増えている要因

環境

アスペルガー
症候群

遺伝

心理

【遺伝的要因】

一般人口における自閉症の頻度⇒0.6%

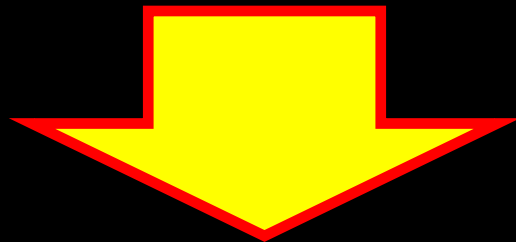
第一子が自閉症、第二子も自閉症⇒3~5%

二卵生双生児

一致率⇒5~10%

一卵性双生児

一致率⇒60~90%

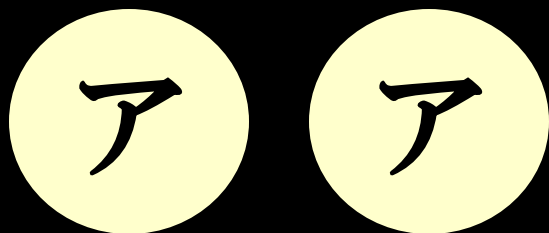


遺伝子により決定される割合は、

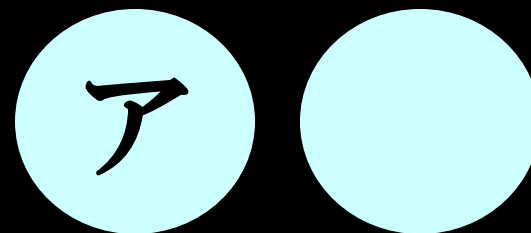
60%以上

【環境的要因】

一卵性双生児の場合



一致する⇒60%以上



一致しない⇒40%未満

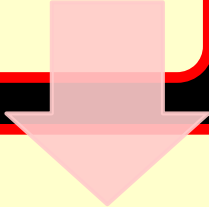
環境的要因

【環境的仮説要因】

- 男性ホルモン説
- 分娩誘発剤の多様説
- ウイルス感染説
- 鉛などの重金属説

【心理社会的要因】

家庭内ストレス
適切な社会的刺激など



神経レベル・遺伝子の発現
レベルで変化が起こる



育った環境が影響した症状
が表れる

まとめ

特性によった。元々がと関き
な環境だったが、こきいと大た。
ような環か、う大ど境思
よのわある補もな環と
じ後があで最達活か
同のそとで程が友生い
は、そこ々過響やの
群も、じる様る影師では
候ても、生じはすの教校
症れが程成長親が、学
一生まれの害はれる多
ガ生違の害イそい多
ルってな障ディ。て機
ペルつきやハンる。れわ
ス持大きやハンる。れわ
アをり大能のでき言わ